

巻頭言

食品油脂機能構造部会の部会長 就任にあたっての抱負

公益社団法人日本油化学会 食品油脂機能構造部会長 上野 聡



広島大学の上野 聡と申します。松村康生（京都大学）前部会長の後任として、本年度より食品油脂機能構造部会の部会長を仰せつかっております。松村先生が、「あまり長く一人の人が部会長を務めるのはよろしくない」とのご意見があったとのことで、部会長職を辞したため、後任として引き継ぎました。そのため、長い期間を務めるつもりではなく、2年間を目途に後任にバトンタッチするつもりで職務にまい進していきたいと考えております。

さて、トランプ政権が誕生して、世の中の動きが激変しました。保護主義の台頭・環境規制の見直し・TPP発効の絶望的状况など、日本もその流れに翻弄されるように見受けられます。日本の油化学をめぐる状況も同様で、世界、とりわけアメリカの状況に著しく左右されています。具体的には、近年高まる一方の消費者の健康志向を受けて、トランス脂肪酸含有率ゼロ規制、そして飽和脂肪酸の低含有率およびオレイン酸の高含有率（すなわち、no-trans, low-saturated, high-oleic）が推奨され、5月に開催された第107回アメリカ油化学会年会（107th AOCS Annual Meeting & Expo., Orlando, May 1-3, 2017）では、このno-trans, low-saturated, high-oleicの流れが当たり前のように各種招待講演、シンポジウム、一般講演で取り上げられ、またこれまでマレーシアの研究グループを中心に大々的に取り上げられていたパーム油の利用および研究が、環境問題を理由にヨーロッパを中心に影を潜め、上記のアメリカ油化学会年会から判断する限り、その流れがアメリカにも波及してきました。物性研究においては、パーム油含有の油脂および食品における応用研究の発表が見られなくなりました。食品油脂機能構造部会としても、このような世界の流行・最新情報を視野に入れて、さまざまな講演会やシンポジウムを企画していきたいと考えています。一方、応用研究に左右されずに、地味かもしれませんが、パーム油関連を含めた基礎研究の興隆にもなお一層の充実を図りたいと考えています。機会あるごとに、国内だけでなく海外の

優れた研究者を招いて招待講演やシンポジウムを開催したいと思います。渡航費や滞在費などを含めた開催費用の問題はありますが、できる限り、海外の著名な研究者やタイムリーな研究を行っている講演者を招き、シンポジウム企画を催したいと考えております。また、油化学会の他の部会や他の学会・研究会などと積極的に連携し合同研究会の開催や協賛を進め、部会メンバーさらには学会員に研究会参加の機会を増やし、部会メンバーおよび学会員にとってメリットが感じられる部会運営を行っていきたくと考えております。現在判明しているだけで、今年9月に日本油化学会年会と同時に開催される第二回アジア油化学会（The 2nd Asian Conference of Oleo Science (ACOS)）での部会としての参加、11月に開催予定の、油脂物性研究会（油化学会とは別の独立した団体）が主催する「油脂物性フォーラム2017」への部会としての共催、来年9月に開催される日本油化学会とアメリカ油化学会の合同会議（JOCS-AOCS Joint Meeting 2018）への部会としての参加が企画されており、その後も別の会合が着々と準備中です。これら企画の具体的中味は、いずれオレオサイエンス誌の会告で明らかにしたいと思います。

以上、食品油脂機能構造部会は、食品油脂の機能性と構造との関連を明らかにし、油化学会に参加しているすべての企業関係者の新たな応用の可能性を示唆することができるよう努力していきます。そして部会に参加している会員同士の積極的な交流を図る機会をできる限り設けて、風通しの良い、明るい部会にしていきたいと考えています。

実現できるかどうか未定ですが、前部会長および前々部会長からの宿題で、部会として国際シンポジウムの開催を考えております。まだ青写真もできていない状態ですが、可能であればこの2年間の間に日程とテーマを決めて開催の目途を立てておきたいと考えています。今後ともご支援のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

（広島大学大学院教授）